

第5回モニタリング委員会の議事概要及びその対応

第5回モニタリング委員会の議事概要及びその対応について以下に示す。

表1 第5回モニタリング委員会の議事概要及びその対応<1/3>

項目	NO	質問・意見等	委員会での回答	備考
モニタリング結果に対する質問や生物に関する情報提供	1	今年度、チュウヒの繁殖は確認されなかった。チュウヒの習性から考えて、昨年の繁殖については偶発的と考えられるが、今後も注意して観察を続けていく必要がある。		今後の調査の参考とする。
	2	湿性草地再生実験地で、平成22年から平成23年にかけて植生が劇的に変化し、セイタカアワダチソウが減少して、ヤナギの実生が増えたことは冠水の影響ということでしょうか。	セイタカアワダチソウについては水分量が増えることによりなくなったというのは確かである。	
	3	掘削予定箇所において、マイヅルテンナンショウとシムラニンジンが再確認できなかった理由について教えてほしい。	両種ともに春植物であることから、7月の調査時には確認できなかった。	
	4	試験掘削地ではトンボ類が春は1種類、秋は4種類確認されている。イトトンボ類が増える可能性はあるか。	時間とともに昆虫相がどのように変化するか調査する必要があると思う。トンボ類や水生昆虫類が少ないが、その一因として、抽水植物や沈水植物が少ないことが影響していると思う。もっと時間が経過すれば、多様な種がすめる環境ができてくると思う。	
	5	最近、以下のような変化があり、参考にしてほしい。 重要種であるオオセッカの生息数が増加している。 あまり人前に現れないサンカノゴイの活動が活発であった。 重要種ヨシゴイは減少傾向にあり、あまり見られなかったが、最近かなりの数が復活してきた。		今後の検討の参考とする。
	6	「これまでに得られた知見」については、新しい情報を足すことを提案したい。	次回の委員会までに整理したい。	今回資料に反映した。
モニタリング結果に対する質問や生物に関する情報提供	7	環境学習フィールドで、今年度非常に多様な植生が見られるが、今後かなり変化していくと思われるが、今後の見通しと対策について見解があれば伺いたい。	現在の多様な植生が、遷移していく様な感じがするので、注意深くみていく必要があると思う。	
	8	試験掘削地の池も含めて渡良瀬遊水地の池では、水生植物の多様性が低く、気になっている。第3調節池の池をみても水生昆虫が全くいなかった。水中における生物多様性の調査が弱いような気がする。	環境学習フィールドの池では1日の中で水温変化が激しすぎ、動植物にとっては良い環境ではないと思われる。また、CODやBODも高めであり、あまり良い状況ではない感じがする。そういった環境が改善できるかどうかも含めて考えてみる必要がある。	

表1 第5回モニタリング委員会の議事概要及びその対応<2/3>

項目	NO	質問・意見等	委員会での回答	備考
モニタリング結果に対する質問や生物に関する情報提供	9	移植に関しては、その後のモニタリングを数年継続して行ってほしい。		今後、モニタリング方法と実施体制を検討していく。
	10	ワタラセハンミョウモドキは渡良瀬遊水地以外では生息しないと考えられている。春季の調査を検討してほしい。	調査の進め方も含めて検討させていただきたいと思う。	H25年の春季に、調査を実施する。
今後のモニタリングについて	11	わたらせ未来基金の調査によると、イノシシが増加していると思われる。また、特定外来生物のアライグマの足跡が見ついている。センサーカメラを使用した哺乳類調査を実施したい。アライグマが確認された場合は、県に連絡して駆除を行うことを検討したい。今後は哺乳類調査も、モニタリングに組み込むことを検討してほしい。	ぜひ渡良瀬未来基金の方でも調査をお願いしたい。	哺乳類調査については来年度に河川水辺の国勢調査で実施する。
掘削の進め方	12	曝気ヤードについては、今後拡張する必要はないのかどうか、どのくらい土を積むのか、高さ、イメージ図とか写真をつけてほしい。また、今後さらに曝気ヤードを拡張することがあるのか教えてほしい。また、事前に動物の調査を実施したのか教えてほしい。	曝気ヤードの目的は含水比の高い土をある程度乾燥させて持ち出すための土地です。2~3mの高さで土を積んでいますが、できるだけ効率的に改良することを考え、出来るだけ面積は最小限で考えてる。 動物は特に調べていないので、情報をよせていただきたいと思います。	・曝気ヤードについては、レイアウトを作成した。 ・一色先生によりチュウヒのねぐら調査をしていただいた。
	13	環境学習フィールド(1)周辺では掘削後、あまり地下水位が低下していないように理解できる。また、環境学習フィールド(1)と与良川の間の区間でも地下水位が高い。以上のことから地下水の流れの方向が測線と垂直であるか、供給源がある可能性がある。地下水を供給される側を掘削すると、周囲の地下水を低下させてしまうのか、周辺にあまり影響を及ぼしていないという見方でいいのか、教えて欲しい。	今年の8月に全体的に地下水位が低下しており、今後の動向をもう少し見ないと、あまり確定的なことは言えない。	
	14	H25掘削箇所は水路と接続させるのか。	接続させる計画はないが、隣に石川があるので、ある程度は地下水を通じて水のやりとりがあると思われる。	

表1 第5回モニタリング委員会の議事概要及びその対応<3/3>

項目	NO	質問・意見等	委員会での回答	備考
掘削の進め方	15	渡良瀬遊水地にはハクチョウが利用するような広い池が少ない。環境学習フィールド程度では狭い。池の広さについても考えて欲しい。深い池、浅い池をつくる場合、現在の野鳥の利用状況を参考にしてほしい。		今後の掘削計画に反映する。
重要種の保全	16	回復可能種にコキツネノボタン、タチスミレ、コイヌガラシ、エビネを加えることについて、東大の先生たちも、了承しているか。	了承を得ている。	
掘削地の維持管理	17	環境学習フィールド(2)は掘削したばかりであるが、ヤナギが今年、非常に生えすぎている。来年の春までにヤナギの駆除を行いたい。ぜひ、利根川上流河川事務所、地元自治体と協力して進めていきたい。		2月26日に、利根川上流河川事務所も参加しヤナギの除去作戦を実施した。
ヨシ焼き	18	ヨシ刈りされた場所をヨシ焼き実施と見なして評価されているが、ヨシ焼きとヨシ刈りでは、実際はいろんな条件が違うという話を聞くが、どうなのか。	データとしては、22年までのデータとヨシ焼きをやめた2年間のデータがあるので、ヨシ刈りをしている場所としていない場所と両方あるので経年的な変化もみられるが、もう少し整理してみようと思っている。	再整理して結果を報告する。
資料の誤りに関する指摘、資料の作成方法に関する要望	19	資料6のp11の湿性草地再生実験地で平成23年にヤナギが激増しているようなので、このような重要な変化がある場合は写真を添付してほしい。	付属資料に掲載している。	今回資料に反映した。
	20	資料16のp11の湿性草地再生実験地で、堰上げが植生に影響を与えているということが推測できるのであれば、それが一目でわかるように、植生のデータと水位のデータを並べた資料を作成してほしい。		今回資料に反映した。
	21	掘削予定箇所の記載では掘削面積を表示してほしい。また、深い池や浅い池などの環境タイプ別にも面積を表示してほしい。		今回資料に反映した。